

PEM029-P12

会場:コンベンションホール

時間: 5月26日17:15-18:45

## 太陽風の源としての太陽極域コロナの温度構造

### Temperature structures of polar corona in the Sun as a source region of Solar winds

鹿野 良平<sup>1\*</sup>

Ryouhei Kano<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>国立天文台ひので科学プロジェクト

<sup>1</sup>NAOJ, Hinode Science Project

太陽のコロナホールは惑星間空間へ開いた磁場で主に構成されており、高速太陽風の源泉としても重要な領域である。しかし、その加熱メカニズムについては未だ解明されていない。そこで今回、太陽観測衛星「ひので」の観測装置を用いて、極域コロナホール上空のコロナの温度構造を詳細に解析し、加熱がどこで起きているのかを議論することで、加熱メカニズムのための観測的な手がかりを得ようと試みた。「ひので」には、コロナプラズマの多温度構造を調べるのに適した極端紫外撮像分光装置(EIS)と、広域のコロナ温度構造を調べるのに適したX線望遠鏡(XRT)とがあり、今回両者を相補的に活用することにより、空間分解できない微細な構造と大局的な構造とについて研究を行っている。これらの解析から、極域コロナは無数の(開いた)微細磁場構造で構成されており、その微細構造がそれぞれ足元で加熱されているらしいことが判ってきた。

キーワード: 「ひので」, コロナホール, 太陽風

Keywords: Hinode satellite, solar coronal holes, solar winds